

一万人盆踊り盛大に開催

「町民一万人盆踊り大会」が8月15・16日盛大に開催されました。会場の町民会館前には、踊る人から見物の人まで昨年を大きく上まわる人出となりました。団体優勝は女性ドライバー友の会、個人優勝は土井明さん(旭町)でした。



まぐべつ

'80 昭和 (55年)

344

●発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(01555)4-2111
●編集・町民課広報聴係 ☎内線111 ●印刷・ソーゴー印刷

9

生活に 子供たちは何を見た

「開拓時代の生活をできる限り再現し、当時の人たちの知恵や苦勞を体験してみよう」と、八月一日から二泊三日の日程でサバイバルスクールが開かれました。これは、動く資料館を目指す、町教育委員会・ふるさと館が主催して行われたもので、町内の小学四年生から六年生までの四十六名が参加しました。



馬を先頭に 2.5kmの道のりはきついなあ

石油危機から省エネルギーが叫ばれる今日、文明社会に生まれ育った子供たちが、草ぶき屋根の小屋、いなぎびや麦のご飯、電気のない生活に何を感じ何を考えたのでしょうか。三日間の生活の写真と子供たちから寄せられた感想文から皆んなでいまの私たちの生活を考えてみたいと思います。



村の名は「わんぱく村」



「昔は寒かったろうな」と考えながら造った小屋

子供たちの感想

札内南小学校四年 増地あゆみ

バスからおりて、たった二・五キロの道なのにおもいにもつをしよっているせいか、すごく長く感じた。キャンプ地について小屋を作る時に、いつも役にたたない草が、やねのかわりになるとはここにきて初めて知った。その小屋はいがいにあたたかかった。小屋を作り終わった後、一班の人が夕食を作った。その時にお米をたく時電気がないので火をおこしてまきでたいた。夜ねる時もランブしかないので日記をかくのに大変だった。むかしの人は、このような生活をよくしていったと思う。今の私たちが、まねをしてもできないと思う。

札内南小学校四年 久保田泰行

昔の人は、火をおこす時に苦労したと思う。ごはんは今とくらべたら、まずしいと思った。今のぼくらのくらしは、ぜいたくだなあと思えました。

幕別小学校五年 横井美絵

むかしは今とちがいで、むかしはぜいたくができないんだなあと思った。今、わたしたちがテレビを見たり、ラジオを聞いたりしている時、むかしの人たちは、なにをしていたんだろうと思った。いまでもかまどを石で作って、自分の手

開拓時代の



夜はキャンプファイヤーを囲みおじいちゃんから昔の話を聞きました



「火をおこすのは何か何かむずかしいね」



石うすで豆をすりつぶし
ごう汁を食べました



いなぎびや麦ご飯も食べました



「けむいけどいい湯だなあ」
五衛門風呂にも入りました

で火をおこし、食事を作れば石油のふそくにならないのになあと思う。

幕別小学校四年 川岸秀敏

ぼくは、三日間、サバイバルに参加してむかしの人のようすもわかったし、食べ物もだいぶちがうことがわかりました。いなぎびごはんは、はじめて食べました。おいしかったです。そして、いろんな人と友だちになれた事です。電気のないことがわかりました。今

はたいへんべんりになったと思います。

札内南小学校六年 松山有美恵

昔の人の不便さは現代人の私たちには、はかりしれないものがあると思う。二日目くらいになると家がこいしくなる。昔の人たちはよくあんな「小屋」で生活できたものだとつくづく思う。もし雨でも降ったら……。夜がよく見えるので雨もちはましがいいナシ。実際に体験してみて、たいへんさが

よくわかる。苦勞に苦勞をかきねたつらさがよくわかった。

幕別小学校六年 大石哲也

とてもよい経験になった。開拓とうじは、苦ろうしたんだろうなと思った。特に、夜、あかりがくらかったことなどが苦ろうしたと思う。食べ物にもこまったろうと思う。

途別小学校四年 中村靖紀

かいたく小屋の屋根を作る時だけ草をとらなきゃ屋根はできないんだなとわかった。ぼくなんか五日ぐらいでこういう生活はばててしまうのにむかしの人は、毎日こんな生活ができたなあと感じた。むかしの人は、にわたりのなくこえでおきたんだなあと感じた。

幕別小学校六年 森 睦

昔の人は、とても苦しい生活をしていたんだなあと思った。昔の人は、ご飯までの間にかん食などができなかつたので、ご飯のときはおいしく食べられたんだなあと考えた。開たく小屋での生活は雨や雪のふつた時はたいへんこまったことだろうなと思った。

中里小学校六年 守護忠浩

昔の人は、すごいことをしたなあと思います。ぼくたちが昔の人になつたらこんなすごいことはできないと思います。すごく楽しかった三日間でした。ふるさと館の先生方、おばさんどうもありがとうございました。さようなら、わんぱく村村長をやつた守護

西糠内二期地区

農免農道整備事業がスタート

猿別川西地区の農業基盤を支える幹線道路の整備が進められていますが、今年度新たに西糠内二期地区農免農道整備事業が着手されました。また美川地区農免農道整備事業が新規調査地区となりこれら事業が全て完了しますと総延長一七・二キロ以上の幹線道路が完成します。

農村地区において道路は、生活と生産基盤の両面を支える大切なものですが、猿別川西地区の農業基盤を支える幹線道路の整備が進められています。

この地区では、生産物の運搬および農作業の大型化に対し道路の整備が遅れており、農業を営んでいる皆さんの悩みとなっています。整備が進められているのは、猿別川西線と美川基線の二幹線道路です。総延長は、一七・二キロ以上にもなり、四区間（四事業・四参照）に分け整備が進められています。

すでに昭和五十二年度に着手された道営西糠内農免農道整備事業は五十四年度に完了し、延長三千

三百七十五メートルが整備（改良舗装）されており、現在、五十三年度に着手された道営南勢畑地帯総合土地改良事業が進められています。

この事業では、延長五千八百六十五メートルが整備（改良舗装）されますが、これまでに四千百五十五メートルが完了しています。

また、今年度より道営西糠内二期地区農免農道整備事業が新たに着手されます。総事業費四億五千万円を投入し、三か年で延長四千二百三十メートルを整備（改良舗装）する計画ですが、第一年度の今年度は千メートルを整備します。

また、美川基線（延長四千三百三十メートル）を整備する道営美川地区農免農道整備事業が、今年度新規調査地区となり、明年度事業の実施が予定されています。

以上のように全ての事業が完了しますと、生産物の運搬や農作業の大型化がより効果的となり安定した農業経営が図られます。



整備が進む猿別川西線

労災事故をなくそう

建設作業機械などの大型化から悲惨な労働災害があとを断ちませぬ。

職場や町ぐるみの安全運動により最近事故件数は減少の傾向にありますが、作業機械や工法の大型化によって、労働災害の発生要因は、逆に増え続ける傾向にあるといえます。

幕別消防署の救急車で昨年八月から今年七月までの一年間に病院へ運ばれたもののうち、労働災害によるものは、十人十人となりおり、その主な内容は次のとおりです。

■建設作業中、機械にはさまれる（四件、死亡一件、重傷四件）

■農作業中、機械にはさまれる（二件、軽傷二件）

■作業中の転落事故（二件、重傷二件）

■作業中に機械が落下、下敷きとなる（一件、重傷）

また、事故は、夏から秋にかけて集中しております。

ちよつとした油断や初歩的なミスによって、一家の大黒柱が労働災害事故の犠牲者になることのないように、慣れた仕事でも細心の注意をはらい、事故防止につとめたいものです。

●みんなで考えよう

住みよい町づくり



山に捨てられたゴミの出る日以外に収集

家庭周辺の環境整備を

わたしたちが望む、暮らしやすく快適な住みよい生活とは——まずは、さわやかな空気、そして静けさ、のびのびと手を振って歩ける通り、緑あふれる公園、そして何よりもゴミのない清潔なまちなど、いろいろあげることができません。

自分の家の庭を見て美しいと感じます。それは、草が生えれば草取りし、雨が降らなければ水をやり、それぞれ自然にそくして手入れをします。又、他人の家の庭を見ても美しいと誰もが思うことでしょう。

しかし、このような快適な環境も自分たちのものだから美しくできまますが、一歩外へ出たらどうでしょうか、道路の汚れ、道端の草ゴミが捨ててあるのが見受けま

ことに地域の家庭周辺の環境美化は、そこに住み生活するわたしたち自らの心くばりと、お互いの協力が必ずです。快適な生活環境をつくるためわたしたち自身

の身近な環境問題に目を向け、みんなで清潔なまちにしましょう。なお、空地に繁茂する雑草等は害虫発生、犯罪の誘発、枯草による野火の発生の原因にもなります。土地所有者は、定期的に草刈りをするようにしましょう。

交通安全はみんなの願い

明るく楽しく、住みよい家庭生活から、運転者も、自転車に乗る人も、歩く人も交通安全で笑顔のある家庭をつくりたいものです。

交通安全について、家庭や地域の人たちと、なぜ交通事故が発生するか、常に話し合いの場をもちましょう。

家庭では、食事時などで主婦が中心となり話題を出し、主人や子供、お年寄りに事故防止についての話し合いをしましょう。

地域では、公区の場合、老人クラブ、地域子供会など常に交通安全の意識を高める話題をつくりましょう。

—運転者の皆さんへ—

●決められた速度の範囲内であっても、道路や交通の状況、天候や視界などを考えてスピードを落として運転しましょう。

●無理な追越しと、中央線をはみ出している運転は、正面衝突のもとでも大きな原因になります。

●酒を飲むと運転が荒くなって急ハンドルや急ブレーキがふえたり、目の機能が低下して歩行者などに気がつかなくなります。

●夜間は、視界が悪くなるため歩行者や自転車の発見が遅れます。

●シートベルトの着用は、交通事故にあった場合の被害を大幅に軽減します。

—自転車利用の皆さんへ—

●からだに合った構造と大きさの自転車に乗りましょう。

●信号機には、数多い種類のものがあります。その意味をよく知りましょう。

●安全な運転のため、右・左折横断の方法を覚えましょう。

●安全のため、夜はできるだけ乗らないようにしましょう。

●お年寄りの自転車は、車が近づいているのに急に渡ろうとする傾向があります。「止まる」「よく見る」「待つ」の基本的な習慣づけが大切です。

—歩行者の皆さんへ—

●横断歩道や、信号機のある交差点が近くにあるところは、その横断歩道や交差点で横断しましょう。無理な横断は事故のもとです。絶対にやめましょう。

●横断するときは、歩道の縁や道路の端に立ち止まり、右・左をよく見て車が近づいてこないか、どうかを確かめましょう。

●駐車、停車している車の間や車の直前、直後の横断は危険です。

ゴミのない美しい町を

からやめましょう。

●雨の日などは、前が見えにくくなるようなかさのさし方は、危険ですからやめましょう。

住みよい町にするには、ゴミの問題が大きく取りさたされていきます。

市街地域でのゴミ収集は、燃えるゴミと燃えないゴミに区分し、指定された日に集積場へ出すようになっていきます。収集日以外に集積場へ出すと美観上好ましくなく、非常に不衛生のことは誰でも知っていることです。必ず指定された日に集積場へ出すようにしましょう。

農村地域においては、自分の土地だからといって沢や、河川付近に絶対に捨てないようにしましょう。

又、ゴミ捨て場で見受けられますが、まだ使用できるものがたくさん捨ててあります。物を大切にしたいものです。

最近、公区で古紙、空ビンなどを回収し、その益金を公区の親睦に役立てているところもあります。皆さんの公区でも考えてみてはどうでしょうか。

(次号でゴミの不法投棄を記載します)

秋播小麦の 連作、過作に注意



収穫までもう一息

秋の日子しとともに稔りの収穫最盛期となりました。

今月の主な農作業は前月に続いて豆類・ビート・馬鈴しよなどの病害虫防除と馬鈴しよの収穫と搬送、菜豆類の収穫に始まって月末には初霜前に小豆・手亡の収穫、ニオ積み、デントコーンの収穫とサイロ貯蔵を終えねばなりません。また、秋播小麦は九月二十日頃までには種を終えるように前作物の取り入れを適期に行ない、能率よく作業を進めないと越冬前の生育が劣り、冬枯れによる被害が大きくなります。

家庭菜園では、トマト・ナスビ

キュウリなどの果菜類の収穫も最盛期を過ぎてきますので、計画的に収穫し、加工や漬物などに利用しましょう。

畑作

今年順調に生育しているのに、計画的な収穫を行ない次の点に留意しては種作業を進めてください。

①秋播小麦は機械化され、作りやすい作物であることから作付偏重になり、連作や過作となりやすいため、輪作体系を守り、病害虫

の多発や、イネ科雑草の繁茂を防いでください。最近、連作障害による減収と品質の低下から経営を悪化させている例も見受けられます。

②前作物の残渣物をブラウウでいねいにすき込み、デスクハローで整地し、きょう雑物や土塊などによつては種精度が落ちないようにします。

③種子はできるだけ系統的に明らかなものに更新してください。

④施肥は町の施肥基準を参考に、試験によると分施の効果がよく、穂数の確保に有効であることから窒素、カリの施肥量のうち三分の一から二分の一を翌年春に施用するとよいでしょう。また、夏野菜のあと地では前作の肥沃度が高いので適宜施肥量を減してください。

⑤種期は町内でも地帯によつて晩秋までの日照、気温が異なりますので相川、千住地帯などの沖積地帯では九月十五日から二十五日頃、その他の地帯では九月十五日を中心におそくとも九月二十日頃までに終らせませす。また、秋の気温と日照が気かりですから糠内から駒島地区にかけてはできるだけ九月十五日までに終えるようにしてください。

⑥種様式はドリル播きか畦幅三十センチ以下の多条播きとします。穂重型の品種である「ホロシリコムギ」は、は種量をやや多目の

一〇アール当り十五から十七キロ、穂数型の品種である「タクネコムギ」は十五から十六キロ程度を標準に適期は種をしてください。

⑦明年夏に病害虫防除をする場合はスプレヤーの間隔に合わせてトラクターのタイヤ部分をあげては種すると、トラクター踏圧による麦の損傷によつておこる品質低下を防ぐことができます。

馬鈴しよ

①食用、種子用いもは茎葉枯凋剤散布後約二週間で収穫します。堀り取りはなるべく晴天でいも

表面がよく乾く日に行ないましょう。堀り取ったいもはよく風乾してから病いも、二次生いも、傷いもなどを選別して仮貯蔵します。

②収穫直後のいもは、かなり呼吸熱を出すので大量の堆積はさけ十五度内外のところへ二週間程度保管し、適切な通風のある場所に保管してください。

③疫病の防除は堀り取り一週間ぐらい前まで継続的に実施してください。原採種ほど枯凋のおそい品種は、ウイルス病の後期感染を防止するために収穫直前までアブラムシ類の防除を行なってください。

④収穫にあたっては次年以降のノラ生えいも発生防止のため堀り残しのないよう心がけます。

豆類

①大豆マメシンクイガは八月下

旬を中心に防除していると思いますが、防除の行き届いていないほ場では早急にバイジット乳剤一〇〇〇倍液か、サイアノックス乳剤五〇〇倍液を一〇アール当り一〇〇〇散布し、被害粒を最小限に食い止めましょう。

②収穫の適期は小豆、菜豆の場合、熟サヤが七〇から八〇％に達し、子実が硬化して品種固有の色沢を現わした時期になります。大豆では、完全にサヤが褐色に色づき子実が硬化した時期になります。

九月下旬になって降霜の恐れのある場合、小豆・菜豆（大手亡）は霜害を受けると品質が著しく低下するので収穫適期前でも初霜が懸念されるときはやや早めでも収穫します。



③刈り取り時に茎葉の水分が多いときは予乾してニオ積みしませす。ニオの中心に煙筒を立てて積み、抜いて空間をつくとある程

度水分が多い場合でも乾燥します。

ニオ積み期間があまり長くなる
と品質低下を招くことがあるので
子実水分が一六%前後になったら
早目に脱穀します。脱穀にあつ
ては脱穀機の回転数を四五〇回転
から五〇〇回転程度にして子実が
破碎しないように注意します。

④脱穀後の茎葉は家畜の敷ワラ
に利用して堆積するか、家畜に利
用しない場合は、堆肥として水を
かけ堆積して醗酵させたものを明
年利用するようにしましょう。

■てん菜

①褐斑病に対しては九月上旬に
スズH水和剤一〇〇〇倍液を一回
散布してください。また、最近、
ヨトウガの発生がダラつく傾向に
ありますので発生状況に注意しな
がらオルトラン水和剤の一〇〇〇
倍液を早目に散布し、被害を最小
限にしましょう。

②明年使用する床土をまだ採取
していない場合はPHの調整とリ
ン酸の強化、有機物の補給を行な
い、春先きの育苗に備えましょう。

畜産

■牧草地の管理

九月に入り草類は昼
夜の気温の変化など
の気象条件により植
物体の生理が乱れ生
産力がおとろえますので強度の放
牧や刈刈をさげ合理的な施肥管理
によって貯蔵根部の退化を防止し
ましょう。

夏季の施肥は追肥効果の高い窒

素とカリを基本に施用しますが火
山灰の古い草地では窒素の酸化分
解がおそく可給態窒素が減少しや
すいため一般の草地より若干多目
に施肥します。

■晩秋用放牧地の準備

晩秋放牧は集約度の高い輪換放
牧地または带状放牧地で行ないま
す。基本的には造成年次の新しい
草地を選定し八月中旬頃に休牧し
た窒素とカリを中心とした施肥管
理の行き届いた草地を選定準備し
たいものです。



■家畜の飼養管理

①牛舎内外の環境衛生管理

乳牛が住みやすい環境で生活でき
るようにしてやるのが管理者の
努めです。網戸は住宅にだけ使用
するものではなく牛舎にも是非使
用し夜間は電燈を消して舎内の通
風を良くするように心がけてほし
いものです。舎内に糞尿が長期間
放置するとアンモニア息が甚だし
く、ハエの発生も多くなり舎内が
不衛生になりますから通路に石灰

類を散布するなどして舎内はいつ
も乾燥させるように心がけましょ
う。

②デントコーンの収穫とサイレ ージの調整

九月中旬になるとデントコーン
の収穫が始まりますが収穫の適期
は黄熟期です。デントコーン子実
の中央部分が黄色味をおびて凹状
になってから収穫調整するように
十分生育を観察して作業計画を樹
てるようにしましょう。また、近年
サイレージ貯蔵施設もスチール製
や気密性の高いサイロが建設され
ています。気密サイロの特徴でも
あり利点も数多くありますが、一
寸の不注意からおもいがけない事
故が生ずるので詰込みする時は機
械やサイロ内部に入るときなどに細
心の注意を払ってください。

サイレージ調製の作業計画を樹
てるときは必ず安全性の確認をす
るよう集団や個人の話し合いを十
分行ない事故のないサイレージ調
製をしましょう。

家庭菜園

果菜類をはじめとす
る穫りたての新鮮な野
菜を味わい、楽しんで
いることと思います。
さて、日一日と涼し

さが増していく中で、秋野菜の生
育は、発芽期から生育初期におけ
る干ばつのために苦労されたこと
と思います。

今回は、ハクサイ・ダイコンな
どの貯蔵用野菜の管理について二

・三触れてみることにしましょう。

■ハクサイ

生育初期の間引きは、葉の混み
具合をみて間引きされたと思ひ
ますが、五、六葉期には一本立ど
します。

追肥と中耕は、結球始期までに
終らせませす。

病害虫の防除は、前月号の「農
薬の使用」を参考にしてください。

■ダイコン

生育初期の間引きは、ハクサイ
と同じようにしますが、一本立に
するのは、八葉期とします。病害
虫の防除はハクサイに準じます。

■ナガネギ

軟白するための培土は、収穫す
る約四〇日前に最後の培土を行な
います。

病害虫防除は、ハクサイ同様前
月号の「農薬の使用」を参考にし
てください。なお、葉の表面が食
害され白っぽくなっているのはス
リップスによるものです。殺虫剤
(オフナックなど)の散布が必要
です。

■ホウレンソウ
貯蔵用ホウレンソウのは種は、
一日も早く終らせましょう。条は
んにしますと間引きながら利用す
ることもできます。

国勢調査にご協力を

今年十月一日には、全国いつせ
いに国勢調査が行なわれます。

本町での調査は、町全域を一四
四の地域に区分して国勢調査区を
設け、それぞれに調査員を配置し
調査にあたります。調査員は九月
下旬から受持ち調査区内の各家庭
を訪問し、調査の依頼をすること
になります。その時は、皆さん方
のご協力をお願いいたします。

なお、本町の人口、世帯数は大
正九年第一回国勢調査において人
口一一、二五〇人、世帯数二、〇
八六世帯でありました。その後、
企業誘致、団地造成等により、し

かも帯広市近郊という立地条件で
人口が増えつづけています。昭和
五十五年七月末現在の住民登録人
口では二〇、五〇一人(幕別、糠
内、駒島方面九、二九〇人、札内
方面一一、二一一人)で世帯数は
六、〇〇三世帯となっています。

更に、札内地区の区画整理事業
団地造成等により、まだまだ人口
が増えるものと予想されます。は
たして今回の国勢調査では、何人
になるでしょうか。

町民一人ひとりの一層のご理解
とご協力をお願いします。

いつまでも お元気で

●敬老会に612人

●お年寄りに大きな贈り物



晒谷ちよ
(札内豊町)



山中ステヨ
(猿別)



折笠休治
(緑町)



島田カノ
(千住)



山角銀市
(札内若草町)



只野正美
(札内春日町)



北川長之助
(千住)



木村ミヨ
(昭和)



千賀多金治
(西和)

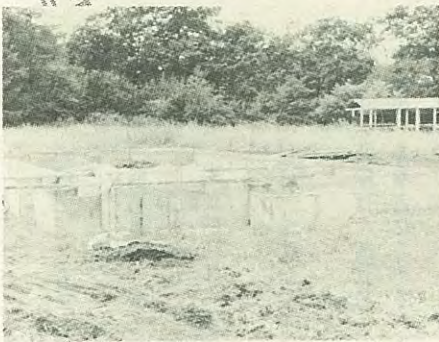
敬老会が今年も九月十八日幕別町民会館で、十九日札内福祉センター二十日榎内公民館でそれぞれ開催されます。今年、該当(七十五歳以上の皆さん全員)された方は、六百十二人いらっしゃいます。また、八十八歳の米寿を迎えられた方は次の十一人の方々ですが、石森ちとしさん(札内あかしや町)、門屋富盛さん(札内春日町)は、都合により写真を撮影することが出来ませんでした。

●老人趣味の家を建設

お年寄りの「生きがい」のひとつにと開講した「しらかば大学」。現在、十勝教職員研修センターを利用して、一般教養や焼きものなど幅広いプログラムに取り組んでいます。町では、その活動をもっと充実したものにしたい。と「老人趣味の家」を建設します。広さは、百七十七平方メートル、主に作業場です。完成は十一月三十日の予定。

●入浴サービス車が入車

この度、「ねたきり老人入浴サービス車」が入車され、入浴サービスが実施されることになりました。現在、町内には二十人のねたきり老人がおります。ねたきりの方が入浴する場合、一般家庭の浴槽では狭く入浴が大変困難です。このため町社会福祉協議会が事業主体となり、特養ホーム札内寮や町婦人ボランティアのご協力をいただき「入浴サービス」を実施するものです。



建設が初まった老人趣味の家

入浴サービス車が入車



町のニュース



皆さんのマチの出来事をこのコーナーで紹介してみませんか。楽しい話題をお待ちいたしております。
(町民課広報広聴係)



「誰れが一番日に焼けているかな」と緑町公区子供会主催の「くろんぼ大会」が8月7日青少年会館で開かれました。



町自衛隊協力会設立十周年を記念して、自衛隊音楽隊による演奏会が止若公園において行なわれました。

あかしや南第二公区で「親と子の町内史跡めぐり」が8月13日に30人が参加して開かれました。同公区は町外からの転入者が多くより幕別を知ろうと開かれたものです。



お年寄りのスポーツ熱は年々高まる一方ですが、今度はゲートボールに挑戦しようとゲートボールの講習会が開かれました。



札内写真友会の第一回写真展が八月十八日より、幕別温泉ホテル二階ロビーにおいて開かれました。



寄付者のお名前

■町へ……■

▽乙武善正さん(南町) 箕島一見さん(南町) から回転式くず箱

■社会福祉協議会へ……■

▽林源一さん(札内あかしや町) から十万円
▽九本栄一さん(依田) から二十万円
▽大栗美春さん(札内西町) から二万円
▽町商工会札内支部青年部から十万円
▽匿名の方から二千元(二回分)

■老人クラブへ……■

▽木村ミチコさん(宝町) から宝町老人クラブへ三万円
▽辻田真市さん(札内豊町) から札内老人クラブへ十三万七千三百五十六円

■身体障害者福祉協会幕別分会へ……■

▽辻田真市さん(札内豊町) から十三万七千三百五十六円

藤平さんに紺綬褒章

本町の藤平清志さんより、老人趣味の家建設資金にと町へ百万円の寄付があり、これに対する紺綬褒章が大石町長より伝達されました。





ふるさと館にまた新しい仲間。
雨山義信さん(新和)から、こうもりが
届きました。特別展示室で飼育中。



サバイバル・スクー ル顛末記

てんまつ き

八月一日から三日間、中里で行った「サバイバル・スクール」で感じたことを記します。

開拓地へ着いた子供たちの最初の苦労は「住まい」を作ること。完成までに時間はかかりましたが「鉛筆も削れない」と評される子供たちはりっぱに鋸を使い、鉋をふるい、ナイフを使いこなしました。器用かどうかは結局、道具を使うチャンスが身の回りにあるかどうかで決まるようです。

食事はイナキビごはんや麦ごはん、イモだんごのおつゆ、川魚の塩ぶり焼など大人には懐かしいっぱいのメニュー。おそらく参加した子供たちは初めて見る食べものだったのですが、意外に「おいしい」とのこと。しかし、テレビのインタビュで「毎日食べた方がいい」と聞かれ、「ときどきでいい」と答えた子供の感想が本音のようでした。

五衛右門風呂をわかして入った子供たち、実にいい顔をしていました。河原に苦労して風呂を据えつけ、自分たちでわかした風呂なのですから、ふだん家庭で使っているスイッチ・ポンの風呂では味わえない感動があったようです。

釣り糸を馬のしっぽの毛で代用したり、開拓小屋の入り口にゴザ

を使ってひもを引くとスーと上げるしかけを作ったり、テントやガスコンロを持っていくキャンプでは体験できない、子供たち自身にくふうがたくさん見られました。

また、開拓時代のようなすも中里で実際に開拓にあたった三人のおじいちゃんに聞きました。子供たち自身が体験した苦労が、おじいちゃんたちの苦労を理解させる手

助けとなったようです。

●最後にサバイバル・スクールを応援してくれたみなさんへ心から「ありがとう」の言葉を贈ります。

深松外次郎さん 国枝光昭さん
吉本龍吉さん 矢部公一さん 守護嘉三さん 土谷繁治さん 小里時司さん 田村賢一さん 山田トキさん 黒川喜雄さん 笹井延雄さん 坂口一治さん 宮脇正さん 渡辺一美さん 木下登さん 塚本正一さん 大阪共同漬物幕別工場 奈良武一さん 辺見徳明さん

連載・第9回

幕別 ものがたり

(3)牧水と黒田温泉
(その2)

毎年秋に温泉前広場で行われている産業まつりには、町にゆかりのある市町村が物産展に参加している。椎茸、茶、乾燥した竹の子などの名産を出品しているのは、幕別町とただ一ヶ所姉妹の関係にある「友好町」の東郷町である。

明治十八年(一八八五年)宮崎県東臼杵郡東郷村坪谷三番地で、若山立蔵を父に、マキを母に長男として生れ、繁と命名された。北の幕別町と南の東郷町をつないだ

のは、この繁であった。繁は高等小学校卒業後、延岡中学校第一回生として入学。この中学校時代の十七歳の時、「中学文壇」に投稿し入賞した。この頃から文芸活動を行い、使った号は「桂露・雨山・野百合」と変り、「牧水」を使い始めたのは十九歳の秋頃からであった。二十歳で早稲田大学文学科高等予科へ、更に英文科へ進み二十四歳で卒業。処女歌集「海の声」を出版。以後、一時的に新聞社に入社することはあったが、本格的な文学活動に入る。

碑文にある「幾山河……」の歌をうたったのは、岡山・広島など中国地方を旅し熱烈な恋愛に若き心を燃やした二十三歳の青春時代であった。

(小助川勝義・記)